

令和七年度 一般選抜試験（Ⅰ期）

国語 〈解答はすべて解答用紙に記入すること〉

埼玉医科大学附属総合医療センター看護専門学校

受験番号
氏名

無断転載・複製を禁ず

令和七年度 一般選抜試験（Ⅰ期）

国語 〈解答はすべて解答用紙に記入すること〉

埼玉医科大学附属総合医療センター看護専門学校

Ⅰ 次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

私が生まれ育った家庭は、女房に言わせれば「異常なほどあたたかい家庭」だった。

一家五人の情愛まことに濃密、誰かひとりが咳^{せき}をすれば家中が心配顔になって、やれ体温計だ龍角散だと大騒ぎをした。

（A）無理からぬ話で、父親は三十五歳の若さで病死した。昭和の初めの頃は肺病は命取りである。母は病院と家を往復しながら、結核菌が四人の子供たちに伝染^{うつ}らないように、どれほど神経をすり減らしたことだろう。

その気配は当然家族全員に伝わり、そろって健康に関しての心配性になった。かくしてひとりが咳をすれば、家中が心配顔になるという特異な家風になったのである。

生まれてからずっとその中にいれば、わが家が特異か（a）否^いかは判断できないものだ。気付かされたのは、妻（当時は婚約者）の出現によってである。

ある日、私は軽い風邪で会社を休んだ。これも家風で、少しでも体調が悪いと母親は学校を休め休めと言うのだ。①妻は会社に電話をかけ、休むくらいじゃ大変だろうと見舞いに来た。

（B）横になっている私のかたわらで姉二人が、なにやかにやと世話をやいている。妻は居る場所もなぐすぐ帰って行った。後日会ったとき、軽い風邪くらいで女二人があんなに②かしづいている図は異常よ、とズバリと言った。

③妻の家はまた極端だった。父親が腕のいい表具師で、何人かの弟子が家族同様に同居していて、毎日が戦場のような騒ぎ。若い衆が刃物で怪我をしても、母親が焼酎を口に含んで霧状に吹きかけておしまい、というような家風だった。

結婚は、家風と家風のコラボレーションである。はじめのうちはうまく行かなくても何の不思議もない。それをなんとか平和裡^{うち}にまとめ、「オリジナルブレンド家風」を創^{つく}ってゆくのが夫婦の、息の長い大仕事だろう。わが家も当初は混乱した。ふたりの子供は、世間とは違うわが家の家風に困惑したはずだ。

世間一般では「男性的」とされる「決断と実行」は（C）から教えられ、「女性的」とされる「情緒と逡巡」は（D）から教えられたからだ。言うまでもなくこれは、私も妻も、それぞれが生まれ育った実家から引き継いだ家風である。はつきり言って変則である。

しかし、多分、どんな家の家風も「どこか変則的」だろう。

その変則を、「我が家の個性」として貫き通せたのが、昔の家、昔の親ではなかったか。④「他所^{よそ}は他所^{よそ}、家は家^{うち}」という言葉を、誰からともなく、昔はよく聞いたものだ。いま、これだけ自信に満ちた言葉を吐ける親が、どれほどいるだろうか。

流行りの言葉でいえば「トンデモ事件」が（b）昨今多発している。遊び半分の殺人。一度経験してみたかったという理由の殺人。保険金欲しさの親殺し。折檻の果ての子殺し。

昔はなかったこの種の犯罪が激増している原因のひとつが、家族関係の希薄にあると思っている。重大犯罪を犯そうとする瞬間、最後のブレーキになるのは親や家族の顔が浮かんでくることだろう。濃密な家族関係のもとに育てば、頭をふり払っても顔は消えない。昨今のトンデモ状況を見るにつけ、ああこの犯人は家族愛に恵まれなかったんだろうなと、まず思う。

家族とは、ふだんは大いにうつとうしいものである。⑤ソリが合わぬものである。（c）テンガイ孤独だったらどんなに自由だろうと憧れること、人間誰しもあることだ。

（E）、人間としての道を踏み外しそうになった時、（F）て面倒で、喧嘩ばかりしていた家族が、地球の引力のような目に見えぬ大きな力となって、大気圏外へ飛び出すのを（d）フセイでくれるのである。

地球の存在がしみじみ有難いと思うことは稀なように、家族についてもそう思うことは（e）メッタにない。われらみな、凡人の愚である。

（山藤章二『論よりダンゴ』による 一部改変）

問一 傍線部（a）（e）の漢字は読みをひらがなで答え、カタカナは漢字にせよ。

a 否 b 昨今 c テンガイ d フセ e メッタ

問二 空欄（ ）A・B・E入る最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えよ。

ア だから イ または ウ しかし エ それも オ すると

問三 空欄（C）・（D）に入る漢字二文字（あるいは漢字一文字も可）をそれぞれ答えよ。

問四 空欄（F）に、問題文中で用いられている形容詞で、最も適すると思われるのを探し、適切な活用形にして答えよ。

問五 問題文から次の一文が脱落している。挿入すべき元の箇所の前（五文字（句読点を含まない））を抜き出せ。

あたしの家では考えられないわ。

問六 傍線部①「妻は会社に電話をかけ、休むくらいじゃ大変だろうと見舞いに来た」とあるが、「妻は会社に電話をかけ」について、妻はどういう状況で何のために会社に電話をしたのか。その内容・状況がわかるように、あなたの推測でこの部分を五十字以上六十字以内で説明せよ。

無断転載・複製を禁ず

問七 傍線部②、⑤の文中での語句の意味として、②は最も適するものを、⑤は最も適しないものを選んで、それぞれ記号で答えよ。

②かしずいている

ア 自分よりずっと身分の高い人に対して、尊敬の念をもってお世話すること

イ 大切に思っている人に寄り添いお世話すること

ウ 親や大人が子供などを大切に養い育てること

エ 真心や忠誠心を示すために、ひざまづくポーズを取っていること

オ 心配のあまり、体を斜めにして近づけ、首を落としていること

⑤ソリが合わぬ

ア 性格や考え方が違う。お互いにふんぞり返って意見が対立する。

イ どうしても協調できない。お互いが納得までに至らない。

ウ 考え方が一致しない。一緒にやっていけない。

エ なんとなくしっくりこない。気心が合わない。

オ 気が合わず仲が良くない。スタンスに大きな違い、隔たりがある。

問八 傍線部③の「妻の家はまた極端だった」を具体的に述べている一文を探し、その最初の五文字を答えよ。

問九 傍線部④「『他所は他所、家は家』という言葉を、誰からともなく、昔はよく聞いたものだ。いま、これだけ自信に満ちた言葉を吐ける親が、どれほどいるだろうか。」とあるが、あなたの周りの状況を踏まえて、「他所は他所、家は家」という考えをあなたはと思うか、あなたの考えを五十字以上六十字以内で自由に述べよ。

問十 次のア～オの文について、問題文の内容と合致しないのはどれか。次の中から二つ選んで記号で答えよ。

ア 多分、どんな家の家風も「どこか変則的」なのだろう。その変則を、「我が家の個性」として貫き通せたのが、昔の家、昔の親ではなかったか。「他所は他所、家は家」という言葉を、誰からともなく、昔はよく聞いたものだ。いま、これだけ自信に満ちた言葉を吐ける親が、どれほどいるだろうか。

イ 気付かされたのは、妻（当時は婚約者）の出現によってである。ある日、私は軽い風邪で会社を休んだ。妻は、休むくらいじゃ大変だろうと見舞いに来た。すると、私のかたわらで姉二人が、なにやかにやと世話をやいている。妻は居る場所もなくすぐ帰って行った。

ウ 昔はなかったこの種の犯罪が激増している原因のひとつが、家族関係の希薄にあると思っている。重大犯罪を犯そうとする瞬間、最後のブレーキになるのは親や家族の顔が浮かんでくることだろう。希薄な家族関係のもとに育てば、頭をふり払っても顔は消えない。

エ 私が生まれ育った家庭は、女房に言わせれば「異常なほどあたたかい家庭」だった。誰かひとりが咳をすれば家中が心配顔になって、やれ体温計だ龍角散だと大騒ぎをした。父親は三十五歳の若さで病死した。母は結核菌が四人の子供たちに伝染らないように神経をすり減らし、その気配は当然家族全員に伝わった。

オ 結婚は、家風と家風のコラボレーションである。はじめのうちはうまく行かなくても何の不思議もない。それをなんとか平和裡にまとめ、「オリジナルブレンド家風」を創ってゆくの夫婦の、最初の大仕事だろう。わが家も当初は混乱した。

無断転載・複製を禁ず

Ⅱ 漢字はその構成や使用法から、「六書」と呼ばれる分類法があり、「象形・指示・会意・形声・転注・仮借」の6種類に分類される。後の語群の漢字の中から、次の①から⑥に当てはまる漢字を選んで答えよ。(①から④は2文字ずつ、⑤と⑥は1文字ずつ)

- ① 象形 (物の形にかたどって作った文字)
- ② 指示 (形のないものや物事の性質を指し示した文字)
- ③ 会意 (象形文字を二つ以上組み合わせ、新しい意味を示した文字)
- ④ 形声 (意味を表す部分と発音を表す部分とを組み合わせた文字)
- ⑤ 転注 (本来の意味をさらに広げて使うようになった文字)
- ⑥ 仮借 (意味には関係なく、発音だけを借りて使う文字)

語群 星 余 鳴 末 清 魚 炎 田 樂 本

Ⅲ 次のそれぞれの () に、適する漢字をA群から選び、解答欄の上段に記号で答えなさい。また、その説明として適するものをB群から選び、解答欄の下段に記号で答えなさい。

- 1 () をたてぬ流れは底が深い
- 2 () 兵法は大けがのもと
- 3 () 頭滅却すれば火もまた涼し
- 4 () にむら雲花に嵐
- 5 () 百まで踊り忘れず

A群

ア 月 イ 音 ウ 雀 エ 心 オ 生

B群

- a 眼前の境遇を超越すれば苦痛を苦痛と感じなくなる。
- b 幼い時に覚えた習慣は年をとっても変わらない。
- c 好事には邪魔が入りやすいこと。
- d 才能のある者ほど日ごろからそれを見せびらかさない。
- e 中途半端の知識でことに当たると大失敗をする。

無断転載・複製を禁ず

IV 次のそれぞれの四字熟語の（ ）に適する漢字を、解答欄の上段に答えなさい。また、その説明として適するものをA群から選び、解答欄の下段に記号で答えなさい。

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1 汗（ ） 充棟 | 2 電光石（ ） | 3 風樹之（ ） | 4 惡戦（ ） 鬪 |
| 5 （ ） 李成蹊 | 6 二律（ ） 反 | 7 創業（ ） 成 | 8 漱（ ） 枕流 |

A群

- ア 相反する二つの命題が矛盾していて、両立できないこと
イ 父母がこの世になく、孝行ができない嘆き
ウ 負け惜しみでひどいこじつけをすること
エ 高德な人のまわりには自然と人が集まってくるということ
オ 蔵書が非常に多いことのたとえ
カ 不利な状況を打破するために、懸命に努力すること
キ 事業を始めるのはたやすいことであるが、それを守り続けるのは難しいということ
ク 動きが非常に早いことのたとえ

V 次の1～8の、aとbとの短文の空欄には、それぞれ同じ漢字二文字が入る。その適する漢字二文字を答えなさい。

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 a 問題の（ ）は別のところにある。 | b 暴風でその木は（ ）から折れた。 |
| 2 a （ ）の手から水が漏れた。 | b 舞台の（ ）から登場した。 |
| 3 a 彼には（ ）というものが無い。 | b ゴミは（ ）して出してください。 |
| 4 a 彼の店は味が良く（ ）がある。 | b そこはいつも暗くて（ ）がない。 |
| 5 a 彼は書道の世界の（ ）だ。 | b （ ）さんにアパートを追い出された。 |
| 6 a その橋は（ ）建設中である。 | b （ ）の人にも優しい態度で接する。 |
| 7 a 父は昔（ ）である。 | b 母は現代的な（ ）の人である。 |
| 8 a 今年はず年の二倍の（ ）があつた。 | b 神仏の御（ ）があつた。 |

無断転載・複製を禁ず